

イギリス  | Waitrose

国内でも海外でも必ずスーパーマーケットに入り浸り、ずらりと並んだ「もの言わぬもの」からその土地の文化を身体で感じる。そこに住む人たちがどんなパッケージデザインを好むのかを見て回ることは、私にとって、美しい雑誌をバラバラとめくるような楽しさだ。

今回は、愛らしいイラストレーションを身にまとったスウェーデンのパッケージを紹介したが、今回はイギリスにある「Waitrose」というスーパーマーケットのプライベートブランド『essential』シリーズを紹介したい。

Waitrose はロンドンでもあちこちで見ることのできるメジャーなチェーンで、ミドルとアッパーの間くらいのクラスに向けた、ちょっといいスーパーである。イギリスのPB商品のデザインのクオリティは非常にレベルが高く、世界のデザイナーが密かに注目している。時に未来的で斬新なもの、時にノスタルジックな色合いで抽象的に表現したものなどがガラリと変わり、ファッションショーを見ているようでもある。昨年の渡英時にWaitroseのPB商品に起用されていたのは、なんとも威勢のいい「スケッチ」だった。描き手の作風が強烈に反映され、原稿からはみ出した絵の具も生々しく残っている。鋭く目に飛び込み、無視できない。

メインビジュアルの強烈さと相反して、背景が真っ白と思いついている。表側にはどれもブランドタイトル、商品名、素材名のみ。この広大な余白は以前からイギリスのパッケージデザインによく見る手法で、PB商品に限らない。必要な情報はほぼ全て裏面に列挙されているので、手に取ってチェックする。

イギリスのデザイン界では、他と同じようなものではなく、揺るぎない個性が求められる。だから、世界の最先端を走り続けることができる。……とはいえ実はもっとカッコリと計算されたデザインが来るのではないかと予想していた。あまりにも鮮やかに裏切られたのがなんだか嬉しくて、店の中でひとりニヤニヤする私であった。



余白を生かしたパッケージデザインは、描きかけのキャンパスのよう



ロンドンのキッチン付きホテルに滞在し、スーパーの食材で食事を作るのも楽しい